

調べ学習

ここ数年、地元歴史を探求する TV 番組をつくっている。地元のケーブルテレビ局ベイ・コミュニケーションズで不定期に放映している「ジモレキ TV」という番組だ。私がゼミの学生たちと地元を歩きながら、地域の歴史を勉強していく設定の番組である。視聴者からの支持もいただき、現在 45 分程度の番組を 7 作品製作して、順次放送や再放送をしながら、さらなる続編を製作中である。

この番組製作は、地元の活性化の活動に取り組むうちにたどりついた結果のひとつだ。住んでいる場所の歴史を知ること、地域の住民が地元を誇りを持ち、そこで暮らして生きる力が出てくるのではないかという発想である。阪神電鉄にご協力をいただき、地元の活性化のための冊子を 2016 年春、世に出した。そしてその冊子の内容に沿ったテレビ番組をベイ・コミュニケーションズ社長樽谷篤明氏のご配慮で、製作できるようになった。

この番組製作の中で私はいろいろなりサーチを行った。地元の歴史なので、メリットは現場にすぐに行けるということである。たまたま、私も鳴尾地区に 30 年以上暮らしている。自転車ですぐに「現場」に行ける。このことが、リサーチにおいて大切なことを教えてくれた。現場第一主義である。そして調査や実験で大切な一次情報重視の考え方である。これらは地元歴史のリサーチにも適用されるべきと痛感した。

今、インターネットには情報があふれている。非常にたやすく情報をゲットできる状況にみえる。しかしそのほとんどは、誰かがまとめた、または受け売りの二次、三次の情報である。

番組のリサーチでは、可能な限り一次情報の利用に徹し、徹底的な調査を行った。番組での露出部分は少ないが、その裏には膨大な情報があって海面の上に出た氷山の一角を支えている。書籍や論文の執筆でも同じことがいえよう。実際に表に出るのは、よくて十分の一、いや百分の一のレベルであろう。

ネットでは、そんな一次情報はなかなかえにくい。とくに地元の情報は、全国レベルでの関心事でないから、誰も調べない。自分の目と耳と足で情報を探し、現場に赴くしかない。極力一次情報にこだわるのが、調べ学習の大切なポイントだろう。本号の私の論文ではその意味で、上記の番組でのリサーチを例にしながら、歴史情報の調べ方について考察してみた。

情報教育研究センターは、武庫川女子大学の附置研究所のひとつである。情報というものを幅広く解釈し、根本的な情報のしくみや構造、その特性を明らかにし、教育面への応用を研究しようとする。今、その第一歩を踏み出そうとしている。

情報教育研究センター長

丸山健夫